「だんらん」を読んでいる皆さんはどう思っているのでしょうか。

「だんらん」は小さいお子さんのいる母親から、非常に共感を得ています。そこで、この「だんらん」を読んでの感想や日ごろ感じていることなどを、長瀬まき子さんと園原恵里子さんのお二人に聞いてみました。

理想論ではなく、実体験に基づいているところに好感を持ちます

私には小学6年生と保育園の年少の子どもがいるのですが、この「だんらん」を読んでいると、ほんのささいなことでも親子の間にはいろいろなエピソードがあるのだなと思いました。

やはり、こういった内容は実際に子どもに接していないと書けない内容ですし、理想論ではないところがいいですね。

実体験に基づいているこの「だんらん」の内容は心に響きますね。それに「だんらん」を読んでいて、子どもとの具体的な接し方がわかった面もありますね。

広報の中では最初にここを読むくらいです。

それに乳幼児から青少年まで、いろいろな家庭のことが書いてあるというのは、これから子どもが成長していく中でとてもためになります。

この「だんらん」を読んでいると、あたたかい気持ちになります。そして、何よりも「家庭」のことについて書かれているということが好感が持てます。

▲長瀬まき子さん（本郷町）

しつけの仕方などを押しつけていないところがいいと思います

私も長瀬さんと同じ意見ですね。

私にも保育園の年少の子どもがいるのですが、「あっこういうことは、ほかの家でもあるんだな。自分の家だけじゃないんだ」って読んでいて共感することがあります。

やはり、この「だんらん」は、実体験に基づいているところに好感が持てますね。

このコーナーが、例えば「しつけはこのようにしなさい」とか理想を押しつけているような文章だと堅苦しくて疲れてしまうのでは、と思うのです。

でも、「だんらん」に関していうと、そういったことはなく、決して美化しているわけでもない。

書いている人が素直な気持ちを文章にまとめているから大変、読みやすいと思うのです。

長瀬さんと同じような意見ですが、乳幼児から青少年までと書かれている内容に幅があるので、「もう少ししたら、私の子どももこうなるのかあ」っていう気持ちになり、参考になりますね。

ありきたりかも知れませんが、「だんらん」っていう言葉は「家族」という一番大事なものをイメージさせるところがいいと思います。

▲園原恵里子さん（野笹町）